



あんにょう

安養

ぐがんにん

～弘願院だより～

ご挨拶

秋冷の候、弘願院檀信徒ならびに「安養～弘願院だより～」をご覧の皆さまにおかれましては、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より弘願院の寺門興隆のために種々ご尽力賜り厚く御礼申し上げます。

令和元年の10月に入りますと世の中は「消費税10%」に突入します。1989年の消費税3%導入から早くも30年が経ち、消費税が8%から10%に上がることで様々な議論がなされております。さらに「軽減税率制度」も導入され、商品によって、または持ち帰りをすることによっては8%に据え置きになるなど、仕組みがとても複雑で、まだしばらく我々の頭を悩ますことでしょう。消費税が上がることは致し方ないし理解しつつも、上がった分の税金がどのように我々の生活に活かされるのか、行き先が不透明なままですと不安を覚えています。

先日、海外の方とお話をする機会があり、文化や習慣について色々と語り合うことができました。その中で「日本人の特徴」として改めて確かにそうだと気付かされるのが沢山ありました。その中の一つに以下のような意見がありました。

「日本の方は、人やモノの行方を気にする。」

ああ確かにそうかもと感じてしまいました。家族間や友人間でも、話の話題に「どこへ行くか・どこに行ったか」そういう話題でお話をするのがよくあります。そしてその行方が

知っている場所であれば安心し、知らない場所であれば不安に思ってしまう。そんな我々ではないでしょうか。

「我々の命の行き先はどこか？」

この世に人として生をいただいた我々の命は必ずいつか尽きてしまいます。しかし、阿弥陀仏という仏さまは「南無阿弥陀仏」とお念仏をとこなえる者は身分・性別・人種、分け隔てなくどんな人でも私が構えている「極楽浄土」に救いとるぞとはっきり約束してくださっています。そして我々は「極楽浄土」で仏さまに成る為に新しい命をいただくのであります。

「かくしよそくもう隔生即忘」という言葉があります。我々は生を隔てれば前世のことをすべて忘れてしまいます。ですが、お念仏の縁で結ばれた者同士は過去の記憶を忘れることなく、「極楽浄土」での再会が叶うのであります。

秋は「十夜法要」が全国各地の浄土宗寺院で開筵されます。いつも我々を優しい眼差しで見守っておられる阿弥陀さまの報恩に感謝し、お念仏の尊さをいただく法要です。

浄土宗を開かれた法然上人が「智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏すべし」と我々の務めるべき道筋を示しておられます。阿弥陀さまへの感謝の思いを抱きつつ、「南無阿弥陀仏」のお念仏をとこなえる日暮らしを共に大切にしていまいりましょう。

弘願院 森岡 達圭

山門前のことば

2019年6月初旬

2019年7月下旬



仏壇の前で

一日に一度反省する 反省は感謝の心を生み
感謝は奉仕の心を生む 合掌は明日への励みとなる
南無阿弥陀仏

一日の終わりにその日を振り返る習慣はありますか？

大手企業のパナソニックの創業者である松下幸之助氏は一日の終わり、布団に入って、暫くは、その日の反省に当てよと仰っておられました。

最近モノが豊かな時代です。テレビ・スマートフォン・インターネット等々、何かしていなければ何か見ていなければ気持ちが落ち着かない、そんな心が多忙な日々を過ごされていませんか。一日をゆっくり振り返ると、もっとこうしておけばよかった、なんであんな事を言ってしまったんだろう、自分を見つめなおすきっかけにもなります。

それと同時に、沢山の人やモノとの関わりの中で生活をしているということにも気が付くでしょう。我々は一人でこの人生を歩んでいるのではなく、家族、友人、すれ違う人々、多くの人との関わりの中で生きています。

目に見える方だけではありません。今ある命はご先祖様あつての命であります。私の命は過去からずっと繋がってきた命であり、また未来へと繋がっていく命なのであります。仏さまやご先祖様も一日一度は仏壇の前で顔を見せてほしいと思っておられるのではないのでしょうか。

仏壇はお寺の本堂を小型化したもので、極楽を象徴するものです。先に極楽で仏さまになるために修行に励んでおられるご先祖様。そのご先祖様に感謝の心を忘れずに「南無阿弥陀仏」のお念仏をととなえ、ご挨拶し、今日一日の自分自身を振り返ることを習慣にしてみませんか？きっと仏さまもご先祖様もあなたのお話をにこやかに聞いてくださることでしょう。自分自身を振り返ることで、「生きている私」から「生かされている私」へと想いが変わってきたならば、今日という一日に感謝し、常に最高の自己を世の中にさし出すことができるのではないのでしょうか。 南無阿弥陀仏

良い加減に生きる

張り詰め過ぎは互いにしんどい

人それぞれ容姿が違えば性格も違う。多様な価値観を持つもの同士が共に生き活かされながら我々は日々生活をしております。私もお寺の運営や家庭の方針について一生懸命になるあまり、極端に物事を考えてしまう傾向があり、反省しなければと考えることがよくあります。

お釈迦さまの教えに「中道」という教えがあります。中道とは、簡単にいえば極端な立場を離れることです。お釈迦さまは出家されてからは極端なほどの難行苦行に進まれましたが、結果、極端によって悟りは得られないことに気づかれ、中道をいくように決意されました。

このようなおはなしがあります。お釈迦さまの弟子に、ソーナという熱心に修行に励む弟子がおりました。このソーナは生まれた時から非常に大事に育てられ、どこに行くにも自分の足で歩かずに、誰かが運んでくれました。そんなソーナは縁あってお釈迦さまの教えを聞き、出家したわけですが、自分で歩いたことが無かったソーナは裸足で托鉢に回ったり、山林にこもって修行を続けると足の裏の皮は破れ血まみれになってしまいます。真面目に修行を続けたにも関わらずいつまでたっても覚りを得られず悩んでいました。その様子を見たお釈迦さまは、譬え話をしました。

「琴の弦は締め過ぎても、ゆるめ過ぎても良い音は出ない。丁度良い張り加減で美しい音色が奏でられるのである。修行もそれと同じで、追い詰め過ぎれば心が昂ぶり、努力を忘れるならばそれは怠惰となる。調和のとれた修行こそが正しい道に導くのだ」

これを聞いたソーナは自身の修行を改め、後にさとりをひらいたとされます。

何事も極端に偏らないバランスを感覚を持ち、気を楽しみして「良い加減」を見つけることが大切ではないでしょうか。 南無阿弥陀仏

6月29日 弘願院 施餓鬼法要を厳修しました

お参りいただいた方と共に「餓鬼」へ飲食を施すとともに供養し、法要でおとなえしたお経、お念仏の功德をご先祖様へ回向いたしました。当日は生憎の雨でしたが、お参りいただいた檀信徒の方々と共にお念仏をおとなえさせていただきました。

金沢市内は7月盆であり、法要の数日後にはお盆を迎える時期でしたので、今一度「供養」ということに注目し、法話をさせていただきました。お寺へのお参りやお墓参りの際に、蠟燭・線香・お花をお供えされますね。なぜそれらを供えるのか、どのような心持ちでお寺やお墓をお参りすればよいのかということを中心にお話させていただきました。



7月13日～16日 今年もお盆のお参りを無事に務めました



今年のお盆も多くの方がお参りにこられ、ご先祖様を心から供養される姿が誠に尊いものでした。板キリコの代わりに今年から導入した「水塔婆」にもご理解いただき、誠にありがとうございました。

ある檀信徒の方のお孫さんが「お墓をピカピカにする!!」と家族の先頭を切ってお墓のお掃除をしたり、本堂の阿弥陀様の前で「こうやってするんだよ!」と大きな声でお念仏となえながら他のご家族にお念仏の指南をされていた姿に顔が和らぐ、そんなひと時もありました。



弘願院本堂の備品を整えております

1645年開創と歴史のある弘願院ではありますが、建物や備品も徐々に傷んでおります。常に清掃や営繕に努めておりますが。我々の命同様に「モノ」にも寿命というものがやってくるのです。現在弘願院の本堂内の備品を徐々に新調しております。

ここ弘願院を護らせていただいて早くも一年が経ちました。これらの備品は私個人が「寄贈」という形で新調させていただきました。私の思いとしては

「多くの方に弘願院にお参りにきていただきたい」の一心に尽きます。

弘願院は年間に四つの行事の他、お盆や春秋のお彼岸など仏事に触れていただく機会があります。また、今後は写経会や御詠歌の会を発足させていきたいと思っております。何かと時間に追われて慌ただしい世の中ではありますが、お寺は心落ち着く安らぎの場所であると共に、お念仏の信仰を養う場でもあります。

長年使われてきた「モノ」に感謝の念を抱きつつ、少しでもお参りいただける方が気持ちよくお参りできるように設備面で可能な限り充実を図ると共に、私自身もより一層勉強に励み、弘願院に関わる方々の為に務めてまいりたいと思っております。

ここでは新調した備品を少し紹介してまいります。

その① 本堂内来客用机と椅子

今までは4人掛けの低いテーブルをおいておりましたが、この度、6人掛けのテーブルを寄贈しました。机の高さも60cmですので、どなたでもゆったりと座れるものです。セットの椅子6台も机に合わせた高さの椅子を用意しましたので、お参りの前後の休憩もより快適にお過ごしいただけます。



その② 本堂内 お参り用椅子

本堂で行われる仏事の際にご利用いただける椅子を 10 台寄贈しました。正座をすることが困難でも安心してお参りができます。畳も傷みにくい椅子であります。



その③ 事務用机 6 台 (背高 4 台 / 背低 2 台)

本堂という広いスペースで写経会の開催や、会議や打ちあわせなど様々な用途でご利用いただくために机を 6 台寄贈しました。



その③ 木魚 5 個 / 百万遍数珠

我々がお念仏をとなえる時に叩く木魚と大勢でお念仏をおとなえしながら数珠繰りをする時に使用する百万遍数珠を寄贈しました。お念仏の信仰がより深まっていく手助けとなる大切な仏具です。



その他、細かな仏具や本堂で使用するものなど合計 38 点を寄贈させていただきました。

弘願院地蔵尊 前掛け奉納の御礼



弘願院地蔵尊の前掛けの奉納について、檀信徒の方々にはお盆前に郵送し、また、山門前掲示板でも近隣の方にも周知するなど広くご案内をさせていただきました。

そして皆さまのご理解を賜り、沢山の申し込みがありましたこと、御礼申し上げます。申込み時に記入いただいた供養や祈願の内容を前掛けに記し、弘願院の本堂の阿弥陀さまの前で法要を行い、その後、お地蔵さまに掛けさせていただきました。皆さまの想いのこもった前掛けをかけられたお地蔵さまはとても嬉しそうな顔をされていました。

また、弘願院の前を歩かれる観光の方やご近所の方も、お地蔵さまに手を合わせていただくのを以前よりも多く見かけるようになり、皆さまの志が尊い新たな信仰を結ぶ懸け橋となっております。

前掛けは雨風や日光等の天候により劣化が進んでまいります。どうか継続的なご協力を賜りたく思います。

じゅう や ほ う よ う 十夜法要

～永代経併修～

～阿弥陀さまの報恩に感謝するために～

日時 10月27日(日)
14時～16時

場所 弘願院 本堂

内容 14時より 十夜法要
15時より 法話

※どなたでもご自由におまいりいただけます。
ご近所の方やお時間許す方は是非ともお越
しくください。



十夜とは...
浄土宗でよりどころとするお経に「十日十夜のあいだ、善行を行うこと
は、他の仏の国で、千年ものあいだ、善行を励むよりもすぐれている」との
一説が由来です。その善行とは「南無阿弥陀仏」とお念仏をとなえること
です。いつも我々を見守っておられる阿弥陀仏の報恩に感謝し、お念仏の
尊さを感じ得る法要です。
「お念仏の秋」を共に過ごしてまいりましょう。

浄土宗

安養山 弘願院



教えて！わかりにくいお経や作法

三、「合掌・数珠」



合掌とは古代インドで行われてきた、相手への敬いの気持ちを表す作法で、仏教ではこれをうけて仏さまやご先祖様を礼拝する時に行います。

合掌には様々な形がありますが、浄土宗では両手の指をぴったりと胸の前で合わせ、45度の角度で斜めに保つ「堅実心合掌」の形をとるのが一般的です。

堅実心合掌とは自らの内に抱く拝む心が外に表れる姿です。心をこめて合掌してください。

数珠は「寿珠」と書くこともあります。また、「念珠」と呼ぶこともあり、常に念仏を励み、信仰を高めるために持ちます。浄土宗ではとなえたお念仏の数を数えるための仏具として二連の数珠を使います。

法然上人は「必ず念数を持つべきなり。…念珠を博士にて、舌と手とを動かすなり」と、拍子とりの意味も踏まえて、念仏するときは数珠を持つべきであると仰っています。

数珠の掛け方は、上図のように合掌した手の親指と人差指の間に掛けて、親指の後ろの方にたらしめます。

【合掌して拝むとき】

二連の数珠をそろえて両方の親指にかけ手と体の間にたらしめてください。

【合掌していないとき】

二連とも一緒に左手の手首に掛けるようにします。



① 親指の手前にかける場合

浄土宗の日課念珠は、輪違いになっている。2つの輪を重ね合わせ、合掌した両手の親指に掛けます。

(※上記図を参照)

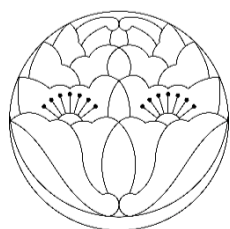


編集後記

今年は彼岸花がお彼岸の時期より少し遅れて咲きました。今年もとても暑い夏でありましたから、花が咲く時期にも何か影響したのかもかもしれません。

暑い夏も終わり、徐々に秋に向かってまいります。季節の変わり目ですので、皆様どうぞご自愛ください。

発行者



浄土宗 安養山

弘願院

〒921-8031 石川県金沢市野町1-3-87

Tel : (076) 243-8024 Fax: (076) 243-5165

mail : guganin.jodo@gmail.com



ホームページ



facebook



Instagram

※携帯電話のカメラを近づけてQRコードを読み取りください。



金沢市 弘願院

「安養～弘願院だより～」
第5号

発行年月日 2019年10月1日
発行者 安養山 弘願院
森岡 達圭